

美術科学習指導案

指導者 重本 優紀

日時 令和4年11月19日(土) 第2校時 10:25~11:15
年組 中学校 第3学年2組 計39名(男子18名,女子21名)
場所 中学校美術室
題材 心をとすあかり

題材について

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)美術第3学年の内容A表現(1)イ(ア)に重点を置いて指導を行う。本題材でめざす子ども像は、「自分を取り巻く生活や環境に主体的に働きかけながら、自分の人生を豊かにする表現を追求し、楽しむことができる子ども」である。「あかり」は私たちの生活に密接に関わるものであり、「あかり」があることで人は心が安らいだり、その光の効果の美しさに心動かされたりする。また、「あかり」を置く空間について考えることで、身の回りの環境に働きかけることや作品が自然と調和することの大切さに気づき、生徒が自らの生活を豊かにする美術の働きについて考えを深めることができる題材だと考える。授業では「光の演出」によって人の心を動かす光の効果について考える題材と、「あかり」によって人の心に安らぎをもたらす光の効果について考える題材を設定する。二つの光の効果について考えることにより、光の使い方によって人の感じ方が変わることを実感できるようにしたい。「光の演出」では、学校行事のステージ・展示で発表する「プロジェクションマッピング」を制作する。音楽のイメージに合わせてプレゼンテーションのアニメーション機能を使い、人を感動させるような映像作品を目指して制作に取り組む。「あかり」では、部屋に飾る「ウェルカムランプシェード」を制作する。部屋に入った時に自分や来訪者を迎えるあたたかな「あかり」の形について考える。素材は藤や針金を骨組みにし、和紙や厚手のトレーシングペーパー、ケント紙を用いてシェードの形をつくる。紙の素材を使うことで、光の透け方や形の美しさ・面白さを追求して制作できるようにすること、また、素材の柔らかさや温かみを感じながら制作できるようにすることをねらった。

本学級の生徒は、自分の考えを工夫して作品に取り入れ表現することに意欲的である。2学年時のモダンテクニックを用いたコラージュ制作では、画用紙の素材を使って切る・折る・ちぎるなどの加工の工夫を主体的に取り入れて自分の表現方法を追求する姿が見られた。一方で、レリーフ制作といった立体作品では、立体の前後の関係性を捉えたり、細かな造形をつくったりすることに苦手意識がある生徒が多く見られた。「あかり」の制作では、藤や針金で骨組みをつくったり、紙を貼り合わせたりして、自分の考えるイメージをどのように形にしていくかを考えながら計画して制作に取り組む必要があり、この制作を通して生徒が試行錯誤しながら自分の考えを具現化する力を身に付けられるようにしたい。また、3学年はこれから自分の進路と向き合い自分の将来を切り拓いていく時期である。緊張が続くような生活の中、部屋に帰ると心がほっとあつたまるような「あかり」について考えることで、部屋を使う自分や部屋に招き入れる相手の気持ちについてじっくり考えたり、光がもたらす効果や重要性に気づいたりする機会にしたい。

指導にあたっては、導入時に実際に光の効果を見せることで、光の使い方によって見る人にさまざまな感情をもたらすことができることを実感できるようにする。「光の演出」では、教室の壁面に映像を投影することで、人に驚きや意外性を感じさせる光の効果についての理解を深める。「あかり」では、光のゆらぎから感じるリラックス効果を味わうことができるよう、ろうそくの炎を教室に置いてじっくり見つめる時間をもつ。制作で用いるLEDライトはゆらめく小さなあかりであるため、光を透過させる方法

やシェードの形を工夫するための動機付けとしたい。制作においては、ランプシェードの試作の時間を設け、紙の素材に慣れるようにする。また、切り込みを入れた紙の形や蛇腹折りなどの練習を通して紙の重ね方や折り方によっても光の見え方が違うことに気づき、自分の作品づくりの発想に生かすことができるような試行錯誤の場を保障する。発想段階のワークシートでは、「あかり」を置きたい場所について考えることで「あかり」を置く空間や環境について考えられるようにする。自分を含めて見る人の心を温めるような「あかり」にするためにはどのような形にするのがよいか、試行錯誤の中で自分の考えを深めたり、変化させたりできるように、制作過程を記録できるようにする。タブレットで制作過程を写真に撮り、思考の過程を記録する補助になるよう指導する。

題材の目標

「知識及び技能」

- ・ 形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果などを理解する。
- ・ 材料の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。

「思考力、判断力、表現力等」

- ・ 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練る。
- ・ 工芸作品の目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深める。

「学びに向かう力、人間性等」

- ・ 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、主体的に心豊かな生活を創造するためのデザインを考えたり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

指導計画（全 11 時間）

次	時	学習内容
1	1～2	・ 光の演出（人の心を動かす光の効果について）
2	3	・ あかりの鑑賞（人の心を落ち着かせる光の効果について）
3	4～5	・ ランプシェードの試作
	6	・ ランプシェードのアイデアスケッチ
	7～9	・ ランプシェードの制作（本時 8 / 11）
4	10	・ あかりがつくる空間（ランプシェードを置く部屋をプランニングする）
	11	・ 相互鑑賞

本時の目標

紙や藤などの材料の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。

【知識・技能】

「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」との関連

導入において、生徒が自分自身の生活を振り返り、「日常で自分がどのようなことを考えているか」、

「そこにどのような安らぎを置きたいのか」といった自分の思いを具体的に話す活動を取り入れ、自分の思いが反映されるよう光の効果を考えて形を工夫することができるようにする。【授業構想力】紙の素材を扱うことにより、加工のしやすさ、素材の柔らかさや温かみを感じて制作に生かせるようにする。

【授業構想力】生徒の思いをワークシートや発言からくみ取り、素材の扱い方や形の表し方を提案し、生徒の発想や技術力を高めていけるようにする。【授業実践力】【授業分析・評価力】

学習の展開

学習活動と内容	○指導上の留意点（◆評価）
1. ワークシートをもとに前時で作成したランプシェードの形のイメージについて進捗状況と課題を振り返る。 2. 制作の手順について確認する。	○ 前時の制作の中で試行錯誤した内容を共有して本時の制作の見通しがもてるよう、4人グループで互いの制作過程を交流する場をもつ。 ○ 素材や道具の扱い方について工夫できるように基本を説明する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自分の気持ちとつながる形の工夫を考えてつくる</div>	
3. 制作する。 ・ 藤や針金で形の骨組みをつくる ・ 紙を切って貼り合わせるなどして形をつくる ・ 素材に色を付けて加工する など 4. 制作過程を写真に撮り、タブレットに記録する。 5. 制作過程を4人グループで交流し、仲間の作品のよさや面白さを見つけて記録する。 ・ 紙の重ね方による美しさ ・ 素材の違いで透け方が違うこと ・ 紙の加工方法に工夫があること など 6. 自己評価をする。	○ 光の透け方を確かめながら紙の重なりや形の工夫できるようにするため、暗幕スペースを設置する。 ◆ 紙や藤などの材料の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。【知識・技能】 ○ 生徒が自分の思考のプロセスを振り返ることができるように、制作の途中段階で記録しておきたいタイミングで作品の写真を撮るよう促す。 ○ 写真をいくつかピックアップして紹介し、紙の重なりや形の工夫について全体で共有できるようにする。 ○ この時間での最終の記録を残しておくよう指示する。

授業の分析

本題材は、めざす子ども像を「自分を取り巻く生活や環境に主体的に働きかけながら、自分の人生を豊かにする表現を追求し、楽しむ子ども」と設定し、人の心に安らぎをもたらす「あかり」の効果を使って、生徒が自らの生活を豊かにする美術の働きについて考えを深め表現活動をするをねらったものである。

授業では、ワークシートの項目を工夫して作成し、生徒が自分の思いを書き出し、アイデアスケッチをもとに自分で計画を練ってつくることができるようにした。項目の内容は、まず、生徒が日常で自分がどのようなことを考えているかを振り返るために、「自分が普段くつろいでいる場所はどのような空間か」、「どのようなことをしているのか」について書き出せるようにした。次に、これから制作するランプシェードについて、作品を置く場所をどのような空間にしたいのか自分の思いが反映されるよう光の効果を考えて形を工夫できるようにするために、「どの場所で、どのように使いたいか」、「そのためにどのような形や色を使うといいか」について具体的に書けるようにした。

(生徒の記述より抜粋)

置く場所について	見る人をどのような気持ちにするのか	そのためにどのような形や色にするか
枕元	穏やかに、落ち着いた気持ちで集中できる空間	丸いシルエット、明るすぎないやわらかい色ほわ〜っと透ける感じ
机の横（考え事をするとき）	かわいらしいゆるキャラみたいなほんわかする感じ	落ち着いた派手すぎず強すぎない色 丸い形
寝るとき	見ていて安心して眠たくなるような、癒される気持ち	丸い感じのものに安心感を覚えるので全体的に丸みを帯びたものにしたい 色は暖かいものにしたいのでオレンジやピンクなどの暖色系にしたい
棚の一番上	自分を勉強する気にする、目を休める 今あるインテリアの中で置いて違和感がなくほっこりする感じ	暖かい感じの色、小さ目で少し直方体、あまりスペースをとらない
玄関の前の廊下の端	穏やかな気持ち、気持ちが和らぐようなあかり	色は暖色系を使う、形はおしゃれに
机の端	自分の疲れやイライラを解消し落ち着かせる	かわいい、もふもふ感、シンプルすぎずダイナミックすぎない色や形
自分の部屋	部屋が寒いので、視覚だけでも温もりを感じられるといい	球体を多めに生かせる形

生徒の様子から、自分がつくりたい形のイメージを明確にもって制作に臨んでいる姿が多く見られ、ワークシートやアイデアスケッチを通して生徒が自分の思いを具体的に出すことができたと思われる。アイデアスケッチをする前に、紙や藤などの材料をどのように扱うか練習を行い、練習を通して経験したことを制作に生かせるようにしたことも、イメージのモチやすさにつながった。アイデアスケッチがあることで、生徒の思いや考えをくみ取ったり引き出したりするための手がかりとすることができた。

一方で、平面であるアイデアスケッチを立体化していくことの難しさがあり、悩む様子も見られた。協議会では、始めから絵にするのではなく形をつくっていく中で試行錯誤することも一つの手であると、

助言をいただいた。また、セット教材の材料でつくっているため、限られた材料でつくることにつまずきを感じる生徒がいた。材料を足してつくることを提案して、生徒のアイデアを形にするための手立てとすることも今後考えていきたい。

今回、生徒が試行錯誤したりポートフォリオをつくって記録したりする活動をする際に、ICT 機器を活用することで、生徒へ授業のポイントをわかりやすく伝えたり、生徒同士で交流する活動を効果的に行ったりすることができた。試行錯誤の過程では、タブレットを使って生徒に制作方法を提示することで、生徒が主体的に資料を活用して制作を進められるような授業づくりができた。ポートフォリオの作成では、生徒が自分自身の制作の過程を記録して作品を振り返ったり、お互いの作品を共有して見るなどして仲間の作品から発見したことを自分の作品に生かしたりする活動を取り入れた。1時間の授業の中で内容を見比べたり、共有したりすることが容易にできることが、生徒自身のフィードバックに効果的であり、授業者が生徒の様子を丁寧に見取り、適切な支援を行うことにもつながると考える。

(生徒の記述より抜粋)

作品紹介
(トレーシングペーパーを)筒状の形にして紙から透けた光だけでなく、花形に切り抜いた部分から直接光を感じられるようにしました。また、一番光の強い下の方に花びらを寄せることで光その隙間から分散されるようにしました。工夫した所は、花形に切り抜いたところで、配置を意識して4か所それぞれ斜めに傾くように切り抜き、大きさもそれに合わせてだんだん小さくなるようにしたことです。(中略)和紙は温かい印象があると思ったのと、花の舞い落ちる様子をより分かりやすく表現したいと思ったからです。
私はこの作品を光の見え方が楽しめるような作品にして、落ち着く上楽しさもある作品をつくらうとしました。そのために2つの工夫をしました。1つ目は、四面を作って、それぞれ和紙の重なり方を変えたところ。二面は一枚の和紙で貼り、もう二面は和紙を一枚一枚小さくちぎって貼り付けました。そうすることで光の見え方が変わるようになったと思います。(以下略)
月をイメージして作りました。子供部屋はごちゃごちゃしていて落ち着きがないので、落ち着きのあるものにしたいなという思いで作りました。また、普段は黄色く少し寂しい感じなので、オレンジで温かみを出せたらいいなという思いで作りました。カーブの部分が多く、その輪郭に沿ってボンドで貼るという作業が一番手こずりましたが、しかし、切り込みを入れて折り返すという作業をすることで月らしい丸っこい輪郭になったのではないかなと思います。
月の真ん中と端で明るさが変わっているので見るところを変えることで色んな明るさを楽しむことができるのがポイントかなと思います。また、和紙で囲むことで少しぼやけた感じにあかりが出るのでどこか現実から離れられるような和やかさのあるものになったのではないかなと思います。

生徒の記述や作品から、生徒が自分自身の生活を振り返り、どのような時に安らぎや癒しを求めている、そのために必要な形や色や大きさなどを自分の経験から発想し、実際に使う時のことを想像しながら主体的に表現しようとする姿を見取ることができた。このことから、生徒が自らの生活を豊かにする美術の働きについて考えを深め表現活動をすることについて、本題材は有効であったと考える。今後も、生徒が生活や環境の中にある美術の働きをより身近に感じ、その生活や環境に自分自身が主体となって関わり工夫していくことの楽しさを感じられるような題材の開発や授業づくりを行っていきたい。